

刊行にあたって

特色 GP「教養日本力」高度化推進プログラム 代表
野 本 京 子

二年半にわたって私たちが取り組んできたプログラムが終了するにあたり、『さまざまな日本の姿を知る II』を最後の報告書として刊行いたします。

私たちが考える「教養日本力」の高度化とは、自明なものとして「日本」や「日本人」をとらえるのではなく、まず日本について問い、考える力を養っていくことにありました。学生一人ひとりが、日本についてのより深い正確な認識と自らをみつめるまなざしを持ち、「世界からの目」「世界の中の日本」の視点を踏まえて発信していけるようにと考え、それに資するプログラムに取り組んできたといえます。このブックレットは三部構成から成っていますが、いずれも本プログラムの活動の軌跡をよく示すものになっていると思います。

第一部は 2009 年 12 月に開催したシンポジウム「海外で発信する日本文化—その多様性と普遍性」の記録です。柱のひとつとして、国内外の日本研究・日本教育の現状と課題について調査・研究に取り組んできた本プログラムの活動を集約したものといえます。充実したご報告をしていただいた講師の皆さまに、あらためてお礼を申し上げます。第二部の公開講座編は日本語の文法、古典研究、そしてきわめてアクチュアルなテーマと内容的にはさまざまですが、いずれも「日本」の姿を映し出したものといえましょう。

また第三部は、多くの学生が在学中に留学を体験する本学の現状を踏まえて行なった座談会の記録を収録いたしました。留学先から戻ってきた学生たちが、外から「日本」をどのように感じ、とらえたのかについて共有できたらと考え、企画したものです。この試みは何回か行なわれ、今回収録したものはその一部です。なお、特筆したいのは、本学の卒業生であり、ずっと沖縄社会の現実について鋭く問い続けて来られた平良研一先生へのインタビューを掲載できたことです。日本への「留学」体験について語られていることと、現在の日本社会の状況（第二部『国道 20 号線』から『サウダーヂ』へ）とを重ね合わせますと、時空を超えて共振し、私たちにつよく語りかけてくるものがあります。ひとりでも多くの方々に、このブックレットをお読みいただければと念じております。

最後に、これまで私たちのプログラムを支え、ご協力いただいた多くの方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

【表紙】

書・黄少光（2001 年）

「契刻千字、文明開端」（千字「文」を契刻し、文明の端を開く）

黄少光：中国・厦門大学助教授、日中比較文学専攻
（文学博士、2003 年、東京外国語大学）